

〈指定研究報告〉

「国際人権に関する研究」 指定研究活動報告

望月 康恵

人権教育研究室指定研究「国際人権に関する研究」は、多様な専門分野（国際機構論、西洋史学、社会人類学、国際法、社会福祉学）の研究者により構成される学際的な研究チームであり、構成員は各々の専門領域や関心事項に基づいて人権に関する研究（国際人権法、人道援助活動、先住民、高齢者、移民、ジェンダーなど）を行ってきた。グループの研究活動は、以下の通りである。

2013年度には2度の研究会を開催した。研究会では、「赤十字国際委員会（ICRC）の国際法上の地位—組織と機能に着目して—」（望月康恵）（2013年7月31日 吉岡記念館）、「高級住宅地となったメキシコ市内旧先住民村落の『地元民』」（禪野美帆）と「高齢者福祉専門職のストレスとバーンアウトに関する研究」（澤田有希子）（2014年1月10日 吉岡記念館）の報告が行われた。研究成果は、以下の通り発表された。「赤十字国際委員会（ICRC）の実体と活動—国際社会における非国家主体についての一考察—」『関西学院大学人権研究』第18号（2014年）（望月）、「メキシコ革命後の『メキシコ性探し』と常軌を逸した個人史 フリーダ・カーロ博物館—アナワカリ ディエゴ・リベラ博物館／ドロレス・オルメド・パティニョ博物館とともに—」『北米の小さな博物館3—「知」の世界遺産—』彩流社（2014年）、「カルゴ・システム—村落社会の自治制度—」「都市と先住民—メキシコ市内の旧先住民村落—」『メソアメリカを知るための58章』井上幸孝（編）明石書店（2014年）、「メキシコ市内の旧先住民村落に

おける情報空間—誰に何を伝えられるのか—」『森羅万象のささやき—民俗宗教研究の諸相—』鈴木正崇（編）風響社（2015年）（以上 禪野）、「地域包括支援センターの専門職の燃えつきとソーシャルサポートに関する研究」『厚生指針』6月号（2014年）、「地域包括支援センターの専門職のソーシャルサポートの実態に関する研究」『人間健康学研究』7・8合併号（2014年）、「高齢者福祉施設男性ケアワーカーのキャリア形成と影響要因に関する質的調査研究」『人間健康学研究』7・8合併号（2014年）（以上 澤田）、「北米の小さな博物館—知の世界遺産3』（共編著）彩流社（2014年）、「フォーティエイターズとアメリカへの移民」『関西学院史学』41号（2014年）（以上 田中きく代）。国際人権に関する研究書の書評として、「菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著『ジェンダーと国際教育開発—課題と挑戦』福村出版」（園田明子）が、『関西学院大学人権研究』第18号（2014年）に掲載された。また日本西洋史学会大会64回大会（2014年6月1日）において、小シンポジウム「北大西洋海域における海の文化空間と海民のリテラシー」（司会、趣旨説明）（田中）が開催された。

2014年度の研究会では、「武力紛争時における人権保護の枠組み—国際人権からみる国際人道法—」（園田）と「ICRC—人道主義への模索と挑戦—」（望月）の報告が行われた（2015年1月26日 吉岡記念館）。

国際人権に関する研究組織の構成員は、国際、国

内そして地域社会における人権問題について、人権規範の普遍性を理解しながら国家や地域における個別具体的な人権問題について学び、社会における人権の保護や促進の在り方を検討してきた。この研究は、大学での教育にも反映されており、今後は大学という場における実践としての人権の保護と促進にも結びつくであろう。多様な研究分野における分析は、人権に関する研究を発展させるのみならず、人権を保護し促進することについての現代的な意義と課題を多角的に捉える貴重な機会となってきた。この意味でも、国際人権の研究がより一層深められることが望まれよう。

研究代表者 望月康恵 (法学部)

研究分担者 田中きく代 (文学部)

禪野美帆 (商学部)

園田明子 (総合政策学部)

澤田有希子 (関西大学 人間健康学部)